

自立活動（肢体不自由教育）

平成26年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第2次）

自立活動に関する科目（Ⅱ）

（問題1～問題6 全6問）

時間9：30～11：10（100分）

（受験上の注意）

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は、表紙を除いて2ページです。  
試験中に印刷不鮮明、落丁等に気づいた場合には手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答は、論述式です。
- 4 解答用紙は、問題別に6枚あります。ホチキスの針は、はずさないでください。  
別に下書き用紙が1枚あります。  
すべての用紙に、
  - ① 種目欄  
受験する種目の□欄に✓を記入してください。
  - ② 受験番号欄  
受験番号を記入してください。
  - ③ 氏名欄  
氏名を記入してください。
- 5 解答は、問題と同じ番号の解答用紙に記入してください。  
解答用紙のおもて面に書ききれない場合は、うら面に記入してください。  
解答用紙の※欄は採点欄です。何も記入しないで下さい。  
筆記用具は、黒鉛筆を使用してください。
- 6 この試験の解答時間は、「始め」の合図があってから、100分です。
- 7 試験開始後30分間、試験終了前10分間は退室を認めません。  
途中退室する場合は、解答用紙と下書き用紙を裏返しにして退室してください。  
問題冊子は持ち帰ってください。
- 8 監督者の「やめ」の合図がありましたら、解答を直ちにやめ、解答用紙と下書き用紙が回収されるまで、着席したまま待っていてください。

### 問題 1

一人での座位姿勢の保持が難しく、外界からの刺激の受容が固有受容感覚や触覚が優位である子供に、目と手をつなげる活動を行うためには姿勢への配慮が必要である。

その際に、次の四つの姿勢についてメリットとデメリットについて述べなさい。

- (1) 仰臥位
- (2) 腹臥位
- (3) 側臥位
- (4) 座位保持装置による座位姿勢

### 問題 2

以下の用語について説明しなさい。その際、各反射・反応の病的意義について、脳性まひと関連付けて述べなさい。

- (1) 伸張反射
- (2) 原始反射
- (3) 立ち直り反応

### 問題 3

以下の五つの用語から三つを選んで説明しなさい。

- (1) 喉頭気管分離手術
- (2) 胃瘻
- (3) 脳室腹腔シャント術
- (4) 血中酸素飽和度
- (5) 強直間代発作

#### 問題 4

脳性まひで多くみられる胃食道逆流の症状と発生機序について説明し、それに対して学校で可能な対処方法について述べなさい。

#### 問題 5

脳性まひの股関節脱臼の病理について説明しなさい。

#### 問題 6

特別支援学校（肢体不自由）に在籍する小学部 2 年生の男児。脳性まひ。色鮮やかなプラスチックや光る物が好きで、呈示すると注視して自ら手を伸ばして掴んでから放る等の動作がみられる。掴んだ物を左右の手で持ち替えたり、手元を見ながら操作したりすることが、少しできるようになってきた。表情は豊かで、楽しい時や嬉しい時は笑顔や喃語を発して表現できる。立位、歩行はできないが、仰臥位から身体を起して長座をとることができる。

この児童が、人や物とかかわる力を育むための自立活動の指導における目標を設定し、それに応じた指導内容を述べなさい。その際には、身体の動きやコミュニケーションに関する内容などを関連させて述べなさい。